

## 第1回徳島市食育推進計画策定市民会議 議事概要

日時：令和2年8月4日（火曜）10時00分～12時00分

場所：徳島市役所13階 大会議室

議題：(1) 第3期徳島市食育推進計画の策定体制について  
(2) 第3期徳島市食育推進計画策定に向けた方向性について  
(3) 第2期徳島市食育推進計画の取組状況等について  
(4) 市民アンケート調査の実施報告について

出席者：委員計11人

浅樋委員、井河委員、宇野委員、高橋委員、新見委員、能川委員、板東委員  
坂東（賢）委員、坂東（光）委員、松村委員、山口委員

事務局計13人

保健福祉政策課ほか

傍聴0人

### 【会議の内容】

#### 1 開会

#### 2 委員の紹介

#### 3 市長あいさつ

#### 4 徳島市食育推進計画策定市民会議設置要綱について (事務局)

資料1「徳島市食育推進計画策定市民会議設置要綱・委員名簿」に基づき説明。

#### 5 会長選出

委員互選により、会長に高橋委員を選出。

#### 6 会長あいさつ

#### 7 副会長指名・副会長あいさつ

会長指名により、副会長に松村委員を選出。

#### 8 議題

##### (1) 第3期徳島市食育推進計画の策定体制について (事務局)

資料3「第3期徳島市食育推進計画の策定について」、資料4「徳島市食育推進連絡会設置要綱・委員名簿」、資料5「第3期徳島市食育推進計画策定スケジュール」に基づき説明。

(2) 第3期徳島市食育推進計画策定に向けた方向性について

(事務局)

資料6「(国)第3次食育推進基本計画(概要)」、資料7「(国)食育推進施策の目標と現状に関する評価(令和元年度食育白書抜粋)」、資料8「第4次食育推進基本計画作成に向けた主な論点」に基づき説明。

(3) 第2期徳島市食育推進計画の取組状況等について

(事務局)

資料9「第2期食育推進計画における各種施策の取組状況等」に基づき説明。

(A委員)

「妊娠期の栄養教室の開催」について、低出生体重児が市内に何人くらいいるのか。また、妊娠期の食育がとても重要だと思っているが、パパママクラス・プレママ栄養教室についてどのような栄養教育をしているのか詳しい内容を教えてほしい。

「保育所給食を通じた食育の推進」について、食物アレルギー児に提供している現在の食事とその研究・検討の内容・テーマを教えてほしい。また、クッキング保育について、子どもが調理にどのように関わっているのか。

(事務局)

令和元年度の出生数は市内で1,965名。1,000グラム以下の新生児については、全体の7パーセント、約140名が低出生体重児であり、例年8%から10%で推移している。パパママクラス・プレママ栄養教室では主食・主菜・副菜をそろえた栄養のバランスが取れた食生活が大切である等、資料を添えて具体的に説明している。また、保健センターでは、栄養に関する知識を記載した健康手帳を窓口で交付するとともに、ホームページ上でもダウンロードできるようにしている。

食物アレルギー児に提供している食事については、医師の診断書を提出していただき、アレルギー児の健康状態や献立等について保護者と保育所が話し合いをもち、集団調理で可能な範囲での「除去食」対応を行っている。献立により「除去食」対応ができない場合は、ご家庭からのお弁当の持参をお願いしている。

近年の研究・検討の内容は、「食物アレルギーについて」「エピペンについて」「アレルギーの対応について」で、各専門の先生方を講師にお招きし、新しい情報を得て、職場に持ち帰り共有するように努めている。

クッキング保育については、子どもは洗浄、皮をむく、切る作業に参加している。使用する食材によっては、自分たちで栽培したものを収穫して材料として使っている。クッキング終了後には感想を話し合い、食材・調理への興味を深めたり、感謝の心を身につけたりして、家庭での食育につなげていけるよう取り組んでいる。

(会長)

第3期食育推進計画策定に向けて、要望等あれば言っていたきたい。

(B委員)

中学生の子どもの中でダイエットを意識し、お米を食べない子が多くなってきている。食べて運動する、運動することによって体型を維持するという考え方が大切であり、食育の中で、食べることとともに、運動することの重要性を付け加えてもらえるとPTAとしてもありがたい。子どもたちの中で、間違った食に関する価値観が広がってきている現状があるので、考慮してもらいたい。

(C委員)

学校給食で食材を使ってもらっているが、給食の時間に、先生と一緒に食や食材について気軽に語り合ってもらえるような場を設けてもらいたい。

(会長)

学校給食は食育の教材として重要視されている。栄養士としても様々な取り組みをしているが、それぞれの学校における担任の先生、教育の現場でも様々な関わり方があると思う。

(D委員)

幼稚園では園内の畑で栽培活動を行っている。子どもたちが育て収穫した食物を使って子どもたちが調理し、みんなでおいしく食べたり、家に持ち帰ったりしている。収穫した食物を持ち帰ると、翌日「昨日の夜料理してくれておいしかった」「今日のお弁当に入れてくれた」という声が聞かれる。幼児期の食育は、家庭との連携が切り離せない。1つの食材を通して、園と家庭が話題を共有し、連携を図っている。

(E委員)

認定こども園では、食育の実践としてクッキングを行っている。子どもたちが実際に畑で栽培した食材を収穫し、一緒に料理を作っている。ただ作って食べるのではなく、調理をしているときの匂いに気づいたり、香りを楽しんだり、実際に五感で感じる事が大事であると思う。

また、何かの行事をするときは、食の経験を付けることで、子どもの思い出に残ると思う。

(A委員)

徳島には、遊山箱という素晴らしい食にまつわる文化がある。実際に子どもたちと一緒に遊山箱を作る機会があったが、ゆがんだ形になるのを直しながら、好きなシールを張ったり、模様を書いたりして完成させ、いい体験だと思った。遊山箱を持って出掛けて、友達と一緒におやつを食べるとい文化は素晴らしいと思うので、伝統文化を伝えていければいい。

また、3歳になる孫に、包丁が入ったお道具箱セットをプレゼントした。それを使うのを見ていると、実際に調理道具を使い、自分で経験してみることが大事であると感じた。

(F委員)

婦人連絡協議会の沖洲地区の活動で、今年2月に地元小学生5・6年生を対象に、無洗米を使用し、「災害時における食事」を体験してもらった。炊いたご飯を食べてもらうと、子どもたちから「こんなおいしいご飯を初めて食べた」と言われ、大変驚いた。現在は、家庭の中で食事を提供する形が変わってきたと感じる。適温給食という考え方があるが、温かいご飯をお茶碗に入れて食べるというのを、子どもたちに実際に体験してもらえてよかった。

(G委員)

管理栄養士として10年前から学校・保育現場に携わってきたが、食育が断片的に行われており、連携が取れていないと感じている。そんな中でも、徳島市の小学校で給食体験が21園と増えているのは素晴らしいと思うし、こういう機会が増えるといいと思う。

現場には栄養士が1人、多くても2人しか配置されておらず、マンパワーが足りない。自身の経験として、食育を進めていく上で、力が発揮できなかったという思いがある。栄養教諭が手を取り合って食育を進めていくことが必要である。

青少年を見てきている中でも、食に興味がない子どもが多いと感じている。幼稚園・保育園の段階から食に関する知識の土台があれば、食にまつわる問題も解決に向かっていくのではないか。中学校女子のスポーツ選手に貧血が多く、子どもたちの身体を守るためにも、栄

養教諭が密になって連携を取って取り組んでいけるような第3期計画の取組になればいいと思う。

(会長)

「1校、1栄養教諭」となるような環境になればいいと思う。

(H委員)

食事を作るのが面倒なため、食べやすいものばかり食べ、結果として、エネルギーになる食事だけを摂取し、身体の栄養となるたんぱく質がほとんど取れていない食生活によって、低栄養の高齢者が多く見られている。子どもがお米を食べないのも問題だが、高齢者がお米ばかり食べる状況も問題である。

(I委員)

市の事業としての食育の取り組みが、こんなにあるのを知って驚いた。乳幼児や母親への広報等の事業がとても大切であると感じた。以前勤めていた学校では、年間2回クッキング教室を学校の栄養士、隣接する高校の先生・生徒にご協力いただき実施した。応募人数が募集人数を上回るほど、好評をいただいた。実際に子どもたちが、自分で作れる料理がひとつできることで、また色々な料理を教えてもらいたいという気持ちも育つ。これが生きる力というものにつながっていくと考える。

(会長)

親子クッキング講座の参加者を募集すると、すぐに集まることが多い。家庭の中だけで教えたりするのは難しい場合もあると思うが、そのような機会を活用してもらいたいと思う。

(副会長)

栄養士の立場からすると、すべての世代における栄養教育・食育が重要だと痛感する。特に若い世代の食事に関して、どのような点に注力するのかを、この市民会議の議論で見いだしていきたい。

人間が持っている生活リズム・体内時計に合った食生活が、いわゆる伝統的な食生活になると考えられる。それを取り入れながら、食材が豊富な徳島の地域の特色を活かして徳島市の食育について考えていきたい。

(事務局)

※ 本日欠席の委員からの意見を紹介。

『新型コロナウイルス感染症の影響により、テイクアウトフードが盛んになっているが、それに伴い脂質異常症、糖尿病の悪化などが若い世代にも見られている。また、朝食を欠食することによる身体への栄養を、正しく理解していない若い方もいるという状況の中で、SNS等を活用した取り組みも重要ではないか。』

#### (4) 市民アンケート調査の実施報告について

(事務局)

資料10-1「食育に関する徳島市民アンケート調査実施要領」、資料10-2「食育に関する徳島市民アンケート調査票(15歳以上)」、資料10-3「食育に関する徳島市民アンケート調査票(14歳以下)」に基づき説明。

## 9 その他

## 10 閉会